

本人活動部会（4月） 南砺市福光美術館に行ってきました



手をつなぐ とやま

第177号

富山県手をつなぐ育成会
富山市安住町5-21
富山県総合福祉会館内
TEL 076-441-7161
FAX 076-441-7255
mail toikusei@minos.ocn.ne.jp
HP <http://toyamaikusei.jp/>

発行責任者
平野 幹夫

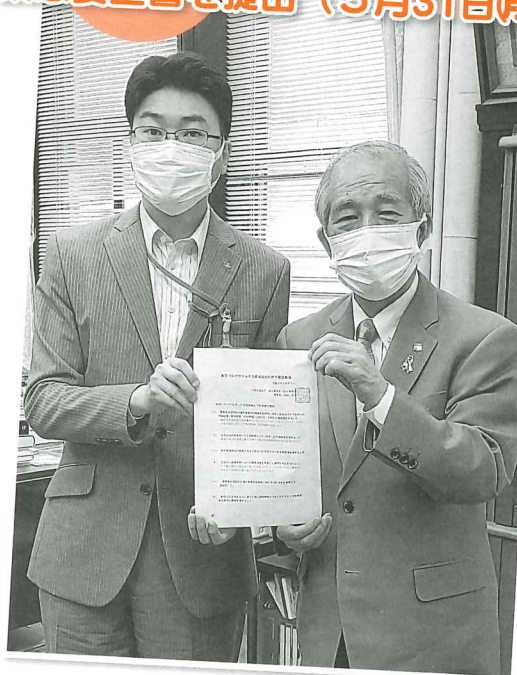
みなさんの会報です
よく読みましょう

なくそう差別
守ろう人権

親から地域社会へのバトンタッチ 「松の木プロジェクト」親向け・本人向けの冊子が完成しました！



新型コロナウイルス感染拡大に伴う 緊急要望書を提出（5月31日付）



▲木内厚生部長（左）へ要望書を提出する
四方理事長（右）

学齢期会員向け（2月） 「あんしんサポートノート学習会」



新型コロナウイルス感染拡大に伴う 緊急要望書の提出

5月31日(月)、四方理事長から富山県厚生部・木内部長に対し、「新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急要望書」を提出しました。

5月から高齢者に対するワクチン接種が始まりましたが、「富山県感染拡大特別警報」が発出される中、会員の方々から、「障害のある本人たちは、いつ接種を受けられるのか、感染したら本人や家族はどうなるのか」という不安の声が多く寄せられてきました。

県内においても、感染症の拡大が継続し、障害者支援施設や通所事業所においてクラスターが発生したことから、同様の施設における職員と利用者に対する集団接種が急務であることを訴え、県と市町村との調整を速やかに行い、ワクチン接種体制を強化するようご支援をお願いいたしました。

あわせて、在宅の知的障害者や特別支援学校教員への早期接種、接種時における障害特性を考慮し

た適切な対応などを要望しました。

引き続き、県議会・五十嵐議長と自民党富山県支部連合会政務調査会・奥野会長に要望しました。

射水市では、障害者支援施設「いみず苑」の職員を対象に5月31日(月)から優先接種が始められ、6月中旬までに入所者、通所者の1回目の接種を終える予定とされています。

今後、各支部においても、早期接種や集団接種を地元自治体に対して働きかけられ、安心できる日常生活が一日も早く送れるよう、共に手をつないで支援体制の強化を働きかけていきたいと思います。

要望書は各支部に送付するとともに、総会冊子に掲載する予定です。

その後の動き

県内では6月から、感染が広がるリスクの高い障害者入所施設や

ひとりひとりが考える 実践活動

高齢者施設で、巡回接種や一斉PCR検査を開始することになり、現在、入所施設利用者の接種について、保護者に対する希望確認がなされているところです。

また、富山市では、新型コロナウイルスワクチン接種特設サイトで、基礎疾患のある方の接種の手続きを紹介しています。(療育手帳を所持

している知的障害のある方は、基礎疾患を有する方に該当し、優先接種の対象となります。)

南砺市では、基礎疾患のある方と、60歳～64歳の7月中の接種開始を目指す予定です。

各市町村において、接種の手続きが異なりますので、詳しくは役場窓口までお問い合わせください。

生活サポート総合補償制度

～「新型コロナウイルス」への特別措置～

◎新型コロナウイルスによる入院も支払い対象となります。

① 医療機関・医師の指示により、臨時施設または自宅で入院と同等の療育をした場合は、入院したものとみなして、入院給付金(入院一時金や入院諸費用など)をお支払いします。

② 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえて、この特別措置は、新型コロナウイルス感染症以外の病気やケガをした方にも適用します。



大反響!

「親から地域へのバトンタッチ」
『松の木プロジェクト』冊子が完成しました

富山市手をつなぐ育成会と、県育成会権利擁護推進委員会が連携して、各エリアで進めてきた「親亡き後研究事業」。

前回国報(176号)でもご紹介しましたが、この3年間の成果をまとめた「親向けブックレット」と「本人向けブックレット」が完成しました。

3月6日(土)、「松の木プロジェクト スタートアップセミナー」が富山市育成会主催で開催され、その場で両冊子がお披露目されました。

冊子の第一部には、「知っておきたいこと、考えたいこと」が10項目にまとめられ、それを踏まえて第二部では、いよいよ「始めたこと」が10項目にまとめてあります。

また、勉強会の過程で、親亡き後の問題は、「本人の自立」を考慮することであると気づかされ、親向けと本人向けを「対」の形で作成し、

若いときから親子で話し合い、取り組めるようにしてあります。

そして、この冊子にはあえて「結論」を出していません。自分で、親子で、仲間同士と一緒に取り組むための「材料」となっています。

後日、富山新聞、北日本新聞等で掲載していただき、セミナー参加者からは勿論、新聞を見て関心を持たれた方々から、大変多くのお問合せがあり、「大反響」となりました。

お問合せのほとんどが、「何もわからない、将来が不安」という会員以外の知的障害者のご家族、精神障害の方や引きこもりの方などの支援団体の方々でした。

当初、肝心の会員さんからの反響が少なかつたわけですが、そこは、育成会では、既に各地域で様々な勉強会を重ねていること、また、相談できる仲間がいるという安堵感から、「今すぐにも欲しい!」という声が多かつたのかなと振



り返っています。

富山市育成会では、ご希望があれば、会員以外の皆様にも有料で頒布しています。

富山県育成会では、会員の皆様の分を準備しており、勉強会やセミナー等の折に配付していく予定です。セミナーを企画したが、コロナ禍のため延期したとの声も届いていますが、少しずつ勉強会の輪が広がっていくよう期待しています。

今般、次の3つの材料【ツール】が揃い、それぞれが仲間同士の絆

を深め、活動するときの大きなツールになるものと考えています。

「あんしんサポートノート」
「松の木プロジェクト」
「ハンドブック」(富山市育成会)
「地域資源開発協働推進

今後、各エリア、支部におかれ
ては、この3つの材料【ツール】
を有効に使って、育成会活動を進
めていただきたいと考えていま
す。

松の木プロジェクトハンドブックの前書きには、「皆さんが勉強会を重ね、準備を始め、行動へ移すことで、不安が解消され、本人の自立が促され、親子の安心へつながることを願っています。」と記されています。

さあ、極上の材料が揃いました。どのように料理するのかは私たち次第です。

『松の木プロジェクト』。どうして「松」なの、という疑問は、実際に冊子を手にとって開いていただければ、すぐにご理解いただけます。お楽しみに!

支部長・相談員合同研修会

「地域共生社会づくりを進めるために」

『地域資源開発協働推進ハンドブック』を活用しよう！

講師 又村 あおいさん

(全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事・事務局長)

11月に引き続き、第2弾として、2月24日(水)、又村あおいさんを再び講師にお迎えし、支部長・相談員合同研修会を開催しました。

今回のテーマは「地域資源開発協働推進ハンドブックを活用しよう！」です。

このハンドブックは、全国手をつなぐ育成会連合会が作成したもので、地域の福祉サービスの整備状況を項目ごとにチェックし、その結果に基づき必要となる働きかけ方のポイントがまとめられたものです。

出席者を地域毎に班分けし、ハンドブックを使用してグループワークを行う予定でしたが、コロナ禍に留意して、又村さんから利用方法等について詳しく説明していただく講演に変更しました。

地域の整備状況をチェック！

ハンドブックでは、福祉サービスごとに、自分の暮らす地域の状況を評価します。

例えばグループホーム（以下、GH表記）では、次のチェックリストから現状を把握します。

整備状況をチェック！

あなたの地域ではどうでしょう？
例えば「グループホーム」の場合

- 車で30分以内の場所に何カ所のグループホームがありますか
- 重度の方の利用状況
- 体験利用の実施状況
- ショートステイの併設
- サテライト型など、地域移行への整備状況

チェックの結果、現状を評価して、評価に基づいた具体的な働きかけ方が見えてきます。

■GHが全く整備されていない。

…行政に計画的な設置を提案。また、整備が進まない要因の検証を依頼する。

■それなりにあるけれど重度の人の利用がまだ難しく、体験利用やショートステイの機能が弱い。

…障害特性や支援区分ごとのニーズの把握を依頼、また、体験利用を促進し、育成会が中間に入って利用調整を進めることなども提案する。

■数も機能も十分にある。

…更にサテライト型の整備など、GHからの地域移行を進める方策を提案する。

知的障害者の地域生活を支える地域資源（福祉サービス）の整備のためには、何がどれくらい不足しているのかを明確化することが、初めの第一歩になるとのこと。ハンドブックには、例に挙げた

GHの他にも、相談支援や地域生活支援拠点整備など13項目がありますが、地域で特に気になる項目、課題となつている項目から、検証を始めてみるのが進めやすいそうです。

課題を共有して、協働しよう

又村さんから、障害福祉サービスの地域資源開発の取り組みは、育成会だけで進められるものではなく、行政や自立支援協議会、他の障害者団体などと課題を共有し、一緒に進めていく（協働）という視点を持つことが大変重要であるとお話がありました。

また、ひと通り説明をお聞きすると、同じ年代ばかりではなく、いろいろな年代の仲間たちを巻き込んで話し合っていかなければ、地域全体のより良い資源開発に結びついていかなないように感じました。

今後、各地域の育成会から地域の関係者に呼びかけ



て、このハンドブックをコミュニケーションを活用するためのツールとして活用し、地域診断を行う活動を広げていただきたいと思います。

障害のある人や、その家族が地域で安心して暮らしていけるよう、ご自身の地域の社会資源開発に、共に取り組んでいきませんか。



11月の研修会では、「地域共生社会」我が事・丸ごと」をテーマに、地域住民同士で支え合い、地域の課題を知り、話し合い、行政や関係機関と連携しながら、解決に向けて取り組んでいくという「地域共生社会づくり」を学びました。

この2回シリーズの研修会に、参加してくださった、学齢期のお子さんを持つ荒城さん。

お住まいの校区では、多様な方々と協働しながら、「地域共生活動」を展開されています。

そんな荒城さんに、「地域共生社会づくり」について寄稿していただきました。

18歳以降どんな暮らしが

できたらいいだろう…

最初の一步

富山市 荒城 和恵

「障害を持つ人の7割が18歳以降自宅で暮らすことになる」(内閣府障害者白書)とのデータが出ています。

私には、自閉症で重度知的障害の息子がいます。現在、小学4年生で地域の小学校の支援級に通っています。息子が3歳のときに障害の診断が下りました。最初は心がついてゆけず、ただ泣く夜が続きました。

ですが療育機関等で同じ境遇のお母さん方や専門家の方々と出会い、話を聞いたり相談したりして様々なことを知るようになって、心が落ち着き、少しずつ方向性を考えられるようになりました。

最初は支援学校に就学させる予定でしたが、子どもが小さいうちから地域に根ざした暮らしを積み重ねたいと思うようになり、遠く

の支援学校ではなく地元の小学校へ通わせることにしました。

今、私は地元で地域共生活動を行っています。

活動内容は、校区の社会福祉協議会や自治振興会と一緒に、共生講演会やイベントを行い、障害のある人もない人も参加できて、お互いに知り合うことができ、各自が自分の思いを発言できる機会づくりをしています。

共生活動に結びついたきっかけは、小さな一歩からでした。

息子が地元小学校に入学してから、毎日、登下校を付き添って歩いていきます。通学路には、地域の見守り隊の方々が立って下さっています。最初は挨拶する程度だったのですが、雨の日も風の日も顔を合わすうちに会話が生まれるようになり、徐々にお互いの話を理解し合うようになり、そこから障害に対しても理解を示して下さるようになりました。

見守り隊の方々は、民生委員、社会福祉協議会、自治振興会などの役員も兼ねていらっしゃることも多く、「校区全体でバックアップ

プしていこうか」、「これを機に地域共生しよう」との流れを作ってくださいました。

そして「新庄北地域共生プロジェクト」が立ち上がり、共生活動が始まりました。地域の繋がりを感ぜられた経験でした。

現在私が暮らしている地域は、私が小さいころから慣れ親しんで暮らしている地元です。

私の両親は、他界してもういません。ですが、私が小さいころ、母と一緒にPTA役員をしていた方々が今でも地域でいろんな活動をなさっていて、私や息子に積極的に声かけをして下さいます。

そのお陰で、人生の漠然とした不安や寂しさを和らげてもらえていて、心の安定に繋がっています。これも、地域に根ざして暮らせているからだと感じています。

こうした日々の中で、地域でお互いに支え支えられる関係を築きながら、18歳以降の息子の安定した暮らしへと繋げてゆけたらと思っています。



確かめる 確かな注意 身を守る

「あんしんサポートノート」学習会

知りたい 聞きたい グループホーム

— あたたかい 心と心のふれあい で 守ろう人権 —

2月27日(土)、昨年の10月、12月に引き続き、学齢期と学校卒業後1～2年の会員を対象にした「あんしんサポートノート」学習会を開催しました。

3回目のテーマは「グループホーム」です。

いずれはグループホームに、と思っている方は多いのですが、費用や生活の様子、利用条件や利用開始までの手続き等、具体的なところがわからないという話、また、グループホームを運営する法人の方や世話人さんからは、利用のご本人の情報が少なく、困ることもあると伺います。

暮らしの場となるグループホーム(以下、GH表記)を利用する際、また、利用する前にも「あんしんサポートノート」は有効に利用することができま

す。そこで今回は、実際にGHを利用するご本人、その保護者、GH運営者がアドバイザーになり、そ



れぞれの立場からお話ししていただきました。

(社福)けやき苑のGHを利用していらっしゃる浅岡由木子さんには、生活の様子、例えば入浴の順番や掃除当番、余暇時間の過ごし方などをお聞きしました。GHを利用してから約4年、週末には自宅に帰るそうですが、まだ少し、寂しく

なることもあるそうです。

浅岡美和子さんは、由木子さんのGH利用にあたり、持病や服薬、性格的なことなど、不安に思っていたことを「サポートノート」を利用して職員や世話人さんに詳しく伝えることで、親自身も安心してGHに送り出せたとお話しされました。(会報175号にも詳しく寄稿していただきました。)

小矢部・砺波・南砺市に5カ所のGHを運営する(社福)手をつなぐとなみ野・理事長の尾崎順子さんには、利用にかかる費用、その他の生活費、金銭管理や利用条件の有無、緊急時の対応、地域住民との接点や利用者同士のトラブルなどを説明していただきました。

各々からの具体的な内容については割愛しますが、浅岡さん、尾崎さんからは共に、「サポートノート」によって、お子さんの正しい情報が共有でき、支援やコミュニケーションがより良いものになる

とのご助言がありました。また、ショートステイやGHの

体験利用を通して、新しい環境に慣れていくことも推奨されました。

「サポートノート」を書くことで、将来を考えることに繋がっていきます。

いつかお子さんが自立する時、誰かに託す時を想像しながら、たくさんの情報を記録していただきたいと思

後日、全体の運営にご協力いただいた宮田真知子さん(富山市)から、県内にGHは整備されつつあるけれど、今後は重度の方も利用できるGHを作っていく必要がある、育成会で働きかけていかなければ、という感想をいただきました。

入所は難しい、在宅では将来が不安、だけどGHも足りない、重度の人はなかなか利用できない、同じ思いを抱く方は多いはず

です。様々な年代の仲間同士、今、地域にある資源、足りないもの、これから必要なもの、将来を思い描きながら、何が必要なのかという声を届ける活動、そのような話し合いができる場を、地域の育成会と協力し、創っていききたいと思

本人活動部会
福光美術館で
アート鑑賞

南砺市立福光美術館では、3月6日から5月9日にかけて、「アートって何なん?」やまなみ工房からの返信」という企画展、また、富山県を含む9県から集まった多様な作品を紹介する「beのコトと人とこの美」という展覧会も併催され、新聞やテレビなどでも連日取り上げられ、障害のある人のアート作品や創作が、多くの方の関心呼び、大きな話題となりました。

世間の話題には敏感な「本人部会」のメンバーたち。行ってみたい、見てみたい、だけど自分で公共交通機関を使って行くのはちょっと大変そう。

ナウイルスの感染状況が小康状態になったタイミングを見計らい、4月25日(日)に福光美術館に行ってきました。

久々に県の福祉バスを借りて、久々のちよっとした遠出です。美術館に到着後は、思い思いに鑑賞にふけりました。

作品と同じポーズで写真を撮ったり、好きな作品を撮影したり、静かに感想を言い合ったり。



「わたしもなにか、書いてみたくなかった!」

「細かすぎる!」

「どうして、こんなに細かくした

のかな?」

「すごいな、いっぱい作ったな」

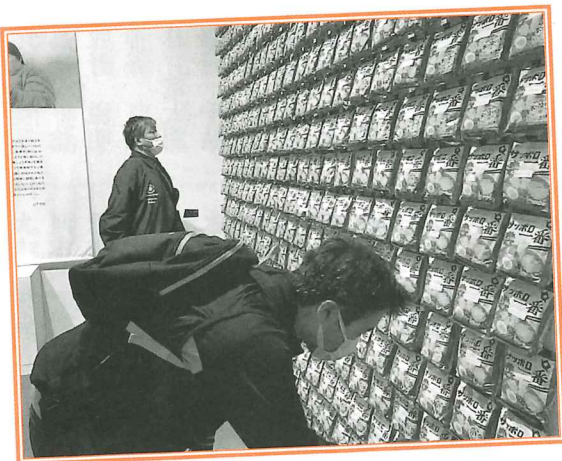
「なんでサツポロ一番なの?」

2階に上がると、富山県の方の

作品に、「あつ、これ〇〇さんだ」と、知っている人の名前を見つけ、親近感を覚えながら楽しんでいました。

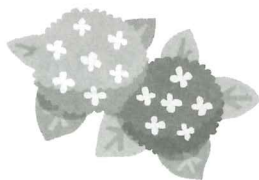
コロナ禍ということもあり、全体で20名程になりましたが、親子での参加や、ご家族で現地合流という方もいらっしゃいました。

県の福祉バスも定員40名のところ、約半数の乗車となってしまいました。このご時世ということ



もあり、「少人数でも大丈夫ですよ」という言葉をいただき、密にならないように、安心して利用させていただきました。

事務局が事前に、感染対策についてしつこく言い過ぎたためか、いつもはワイワイ大騒ぎの車中が、終始シーンと静まり返っている状態でしたが、「ずっと楽しみに待っていました!」「今日は久々に楽しかった」と、満足な顔で会場を後にしました。



ご寄付をいただきました

ありがとうございます

富山パイロットクラブ 様

富山県育成会の会員になりませんか!

知的障害のある本人たちの権利擁護を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりを一緒に進めましょう。

正会員

障害のある人の保護者や家族

年会費

5千円(1世帯)

市町村支部や施設保護者会でさまざまな活動を行っていますので、市町村支部等にもご入会をお願いします。

賛助会員

育成会の活動を理解、応援して下さる方を募っております。

年会費

特別賛助会員 1口 3千円

賛助会員

1口 1千円

賛助会にご入会いただいた方には、令和4年5月発行の会報にご芳名を記載させていただきます。(匿名でも結構です。)

あたたかい 心と心のふれあいで 守ろう人権

……行事のご案内……

1 令和3年度育成会大会(下新川エリア大会)の中止

5月21日に「富山県感染拡大特別警報」が発出され、感染症の拡大や感染リスクの高まりの状況を鑑み、県大会を中止とします。式典、講演会、本人の話し合いは中止となります。

2 総会の開催 6月26日(土) サンシップ

昨年同様、理事・監事・支部代表者会議を開催し、総会に代えさせていただきます。

3 東海北陸大会(静岡大会)の開催 12月18日(土)

静岡県以外の会員は、原則オンライン参加となります。(後日、録画DVD作成)
富山市内にサテライト会場を設置する予定です。

4 全国大会の開催 10月~11月頃

表彰や中央情勢報告などを基本とした「代替的な式典」をオンライン配信する方法を予定。(後日、録画DVD作成)

今後とも、コロナ禍の状況を注視しながら育成会の活動を進めてまいりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

育成会の動き

期 日	内 容	期 日	内 容
【報告】		4/21(水)	富山障害フォーラム会議(富山市)
2/24(水)	育成会合同研修会(呉羽ハイツ)	4/23(金)	障がい福祉セミナー(サンシップ)
2/26(金)	全育連 権利擁護セミナー(オンライン)	4/25(日)	本人部会(福光美術館)
2/27(土)	サポートノート学習会(サンシップ)	4/26(月)	全国サポート協会理事会(オンライン)
3/6(土)	富山市育成会 セミナー(サンシップ)	4/29	理事・監事・支部代表者会(サンシップ)
3/9(火)	富山障害フォーラム会議(富山市)	(祝・木)	
3/10(水)	事業所部会(サンシップ)	5/11(火)	県障害者スポーツ協会 理事会(県民会館)
3/12(金)	育成会運営委員会(サンシップ)	5/13(木)	東海北陸手をつなぐ育成会協議会 理事会(オンライン)
3/14(日)	本人部会(サンシップ)		
3/16(火)	全国育成会連合会 代表者・事務局長合同会議(オンライン)	5/21(金)	サポート協会理事会(サンシップ)
3/24(水)	サポート協会理事会(サンシップ)	〃	富山障害フォーラム会議(富山市)
〃	育成会理事会(サンシップ)	5/31(月)	全国サポート協会 総会(オンライン)
3/25(木)	県障害者施策推進会議(県民会館)		
4/4(日)	本人部会(サンシップ)	【予定】	
4/14(水)	育成会運営委員会(サンシップ)	6/26(土)	総会【理事・監事・支部代表者会議】(サンシップ)
		6/30(水)	全国育成会連合会定時総会(オンライン)